

4年1組 算数科学習指導案

日 時：令和元年6月24日 第5校時

場 所

授業者

1 単元名

およその数を調べよう(全8時間)

2 指導の立場

(1)教材観

児童はこれまでに、大きな数として億や兆の位まで学習してきている。しかし、実際に大きな数を処理する場合には、目的に応じた概数を用いる方が判断や処理が容易になり、見通しも立てやすくなる。さらに、計算の見積もりは普段の生活場面で活用されることで、その良さがより強く感じられる。児童が概数を用いて計算するよさを理解し、概数を生活の中で進んで使っていくように、具体的な場面を通して、目的にあった計算の見積もりの方法が選べるように指導していきたい。

(2)児童観

本学級のどんどんコースは、男子6名女子15名の計21名である。

概数のレディネステストでは、「4万4千は、4万か5万のどちらが近いか」という問題は全員が正解していた。しかし、前単元である「わり算」の中で、 $418 \div 2 = 29$ というような、商の見積もりを行っていないからこそ起こる間違いが多く見られた。商の見積もりをして、間違いに自分で気づいたり、概数を日常生活の中で使ったりできる力を付けていきたい。

また、計算はできるが、計算の説明やそう考える理由を話すことについては、苦手としている児童が多い。グループ交流でなら話すことができたり「なんで？」と質問したりできるようにしていきたい。

(3)指導観

本時のねらいは、「問題の場面には、ど
の見積もりの方法が最も適しているかを話
し合う活動を通して、場面に応じて切り上
げや切り捨てなどの適切な処理をし、見積
もりをすることができる。」である。

まず、見積もりの方法には、四捨五入、
切り上げ、切り捨ての3つがあることを復習
する。

次に、自力解決の時間を2～3分とり、
問題の場面には、四捨五入か切り上げか
どちらがより適しているかを話し合う。「だ
って・・・」「例えば・・・」など、根拠を明らかに
して話したり、例を挙げて話したりする児
童を取り上げながら、授業を進めていき
たい。四捨五入による見積もりは、実際の金
額に近い数値が出せる一方、絶対に足り
るかどうかは確かめられないため、今回の
問題の場面を考えると、切り上げの方が適
していると言える。

もう一問の方は、切り捨てについての問
題である。なぜ、切り捨てで考えると良い
のかという所に焦点を絞ってグループ交
流を行いたい。切り捨ては、本当の金額よ
り少なくなることから、切り捨てで見積もり
をして、それで1000円を超えれば絶対に本
当の金額でも1000円を超えられることを
交流活動で話し合えるとよい。

3 研究内容に関わって

〈多治見市研究テーマ〉

**見方・考え方を働かせ数学的に考える
児童を育てる指導の在り方**

**重点1 単位時間あたりにおける数学的な
見方・考え方と数学的に考える児童
を育てる数学的活動の明確化**

**重点2 数学的に考える児童を見届ける
視点を明らかにした指導改善**

重点1 単位時間あたりにおける数学的な 見方・考え方と数学的に考える児童 を育てる数学的活動の明確化

○単位時間あたりにおける数学的な見方・ 考え方の明確化

本時大事にしたいことが、「なぜその見積もりの方法を選んだのか」という根拠である。「ゆいさんの切り上げの方がいいと思う。だって～」というような、根拠を基に筋道立てた主張をさせ合うことで、数学的な見方や考え方ができると考える。

○数学的に考える児童を育てる数学的活動 の明確化

「問題場面には、どの見積もりの方法が最も適しているかを話し合う活動」を通して、数学的な思考力・判断力・表現力を高めていきたい。そのためにも、問題場面や目的を理解して、それぞれの考えを聞いたり、自分の考えを伝えたりすることが大切である。算数用語を正しく使って説明をしたり、根拠を明確にして話したりすることが苦手な児童は多いが、仲間の考えを聞いて少しでも考えを言葉にできるようにしていく。

重点2 数学的に考える児童を見届ける視 点を明らかにした指導改善

実態の見届け・学習状況の見届け・定着状況の見届けの3つの見届けを大切にしていく。事態の見届けでは、前時の復習で見積もりの3つの方法を理解できているかを見届ける。学習状況の見届けでは、自力解決で自分の考えがもてないグループ交流で仲間の考えを聞いて、考えを持てるよう声をかける。定着状況の見届けでは、先生問題で場面に応じて適切な見積もり方法を判断し、選ぶことができたかを見届ける。